

# 「第15回 国際上下水処理・廃棄物処理 ・リサイクル専門見本市」を視察して



中根 憲二  
NAKANE Kenji  
オールライナー協会  
事務局長

平成20年5月5日～9日までドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場で開催されたIFAT 2008は3年に一度の一大イベントである。他グループでは60万円強の費用であったが、我々は少し工夫して30万円弱で参加することができました。これは出発日等の調整によって変更できるものであるから、今後の計画の参考にしていただきたい。

さて、本題に戻ろう。このイベント会場はビッグサイトの5倍ほどの規模であり、総出展社数・2,222社、内海外より650社、入場者数・108,966人、内外国人34,179人、出展面積・102,997m<sup>2</sup>（前回2005年の実績）となっている。

今回の出展内容は以下のとおりである。

- ①上水処理
- ②下水処理：機械・化学物理的プロセス，汚泥・残渣処理
- ③配水・下水管：パイプ，シャフト，特殊構造，下水管敷設・検査・洗浄
- ④海岸保全・治水技術：災害救助，防災設備，洪水防止
- ⑤廃棄物処理・リサイクル：廃棄物収集・運搬，運搬装置・プラント，機械的処理，熱処理，生物処理，コンポスト・発酵，リサイクル再利用，原料リサイクル，再利用プラント設備
- ⑥廃棄物発電：バイオガスプラント，基質処理運搬，ガス運搬・処理，発酵廃棄物処理
- ⑦道路清掃・管理，冬期道路サービス
- ⑧旧用地汚染除去・土壌処理：汚染土壌・地下水・建物登録・評価・監視，および汚染土壌処理・汚染地下水処理



写真-1 総勢24名集合写真

- ⑨排煙・排気・大気浄化
- ⑩防音・騒音防止
- ⑪空きビン返却システム
- ⑫測定・制御・ラボ技術：測定技術，上下水・廃棄物・大気プロセス制御技術
- ⑬サービス：処理サービス，エンジニアリングサービス，環境マネジメント，業界団体・機関
- ⑭科学・リサーチ
- ⑮屋外スペース：トラックの移動展示，巨大バキューム車の紹介，路面清掃車の紹介など多岐にわたっている。

では、これらの中で特出すべきものを3～4例挙げてみよう。

- (1) 止水パッカー：想像を絶する超ロングのものが目に付いた。止水性の向上，現実性が增大することになるだろう（写真-2）。
- (2) 縦型エアレーションシステム：通常は底部よりエアを噴き上げるタイプであるが，半割り管をうまく利用して貯水をかき回しながら，エ



写真-2 各種止水パッカー

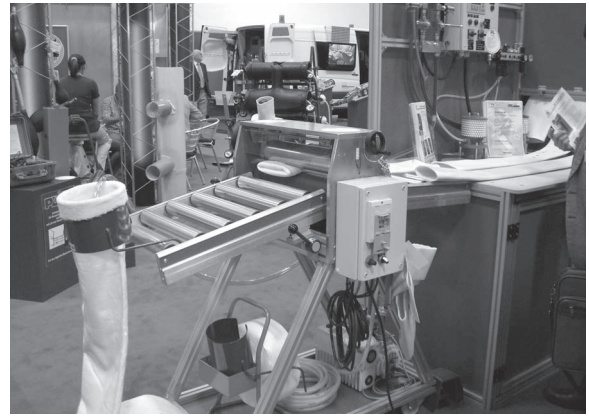


写真-4 現場含浸システム



写真-3 縦型エアレーションシステム



写真-5 取付け管ジョイント

アレーションするタイプで興味ある方法である(写真-3)。

現場含浸システム：簡易型含浸装置である。機械含浸のため品質はさらに向上できる(写真-4)。

- (3) 取付け管ジョイント部の改良：耐震化の最大のポイントである取付け部をフレキシブルタイプにしたものである。新設の場合は利用できる工法となるだろう(写真-5)。

そのほかには検査機械・洗浄機器・超強力潜水ポンプなど目を見張るものがありました。紙面の都合でまたの機会にしたいと思います。

今回の入場料は1日券(22ユーロ約3,520円)、3日券(7,040円)5日券(8,800円)とかなり高額であるが、高くすることによって内容を充実させ、また、来場者の心構えも違ってくるものである。ただ、サービスに努める日本の場合とはいささか考え方が異なるような気がする。彼らは日頃の得意先に感謝をしてサービスし、また、新しい商談を開始しているのである。更に、入場券でメッセ会場までの往復に限り公共交通機関を無料で利用できるシステムにしてあり、開催者の意気込みが感じられた。日本においても、今後はお披露目の考え方から住民協力を得るための情報提供の場所として、また、若い人たちの意識の向上の場にしたいもの

である。特に我々下水道に関わるものが、下水道の大切さを訴える最大の機会として活用すべきである。勿論、企業にとっては、宣伝効果を狙っているが、住民にとってこんなに大事なことをやっているというPRを前面に押し出すべきであろう。IFATの会場には子供は少なかったが、ヨーロッパでは学校教育で下水道の大切さを伝えていと聞いている。日本も早く成熟した社会にしたいものだと思感した次第である。

